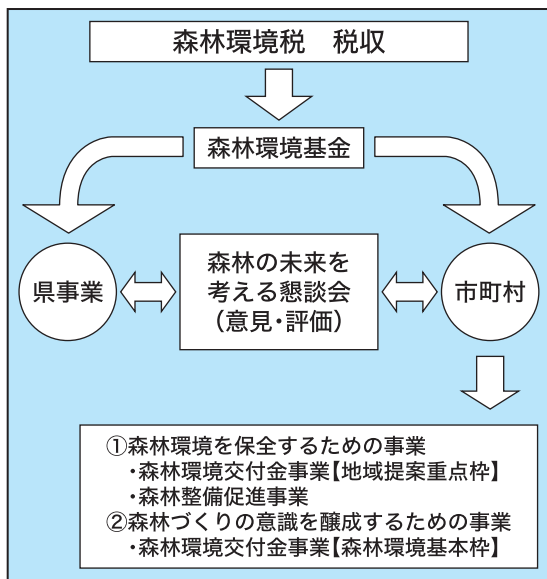


森林環境税は何に使われる？

〈森林環境基金事業のしくみ〉



森林環境税による事業は、「森林環境を保全するための事業」と「森林づくりの意識を醸成するための事業」の二つがあり、今年度実施する大倉比良林公園の整備事業とペレット

ストーブの導入事業は「森林環境を保全するための事業」として実施されるものです。只見町は面積の約9割が森林、その貴重な資源を保護しながら利活用にも取り組んでいきます。この事業が完了後には、あらためてお知らせいたします。



「森林環境交付金事業」を実施

森林を守り・森林を活かす

町では、今年度、森林環境税を財源とした二つの事業が行われます。それは、大倉地区比良林公園の整備事業、そして、ペレットストーブの導入事業です。森林環境税（県税）は、森林の整備・利用の促進や森林体験学習の推進などに取り組むため、平成18年度から導入されました。

大倉地区比良林公園については、福島県の天然記念物に指定されているサラサドウダンの巨木を中心とした、住民の方が森林とふれあえる憩いの場として公園を整備。

また、付近には「季の郷湯ら里」があり、公園までのアクセスも良いため、気軽に森林散策や森林浴を楽しめる公園として整備します。更に、公園内には、福島県産の間伐材を利用したベンチも設置されます。



ペレットストーブとは、木質バイオマスを利用した環境に優しい暖房ストーブで、木質バイオマスは、間伐材や製材時の端材、木くず等を原料とした燃料のことです。これらの原料を扱いやすい燃料として加工したものをペレットと言います。木を原材料としているため、ストーブ燃焼時に排出される二酸化炭素は、木が育つ過程で大気中から吸収した二酸化炭素なので、新たな量の二酸化炭素は排出されません。ペレットストーブは、炎のめくもりを感じられるだけでなく、地球温暖化対策にも貢献している環境に優しいストーブです。今回は、「森林の分校ふざわ」に7台と「只見スキー場」に3台設置されます。



▲比良林のサラサドウダン



【河井継之助】

文政10(1827)―慶応4(1868)年。長岡藩上席家老として藩政改革を断行した。戊辰戦争で武装中立を図ったが、新政府軍に受け入れられず奥羽越列藩同盟にくみして開戦。北越戦線の激戦を指揮。敵手に落ちた長岡城を奪還したが傷つき、会津を目指す途中、塩沢村(現只見町塩沢)で死去した。

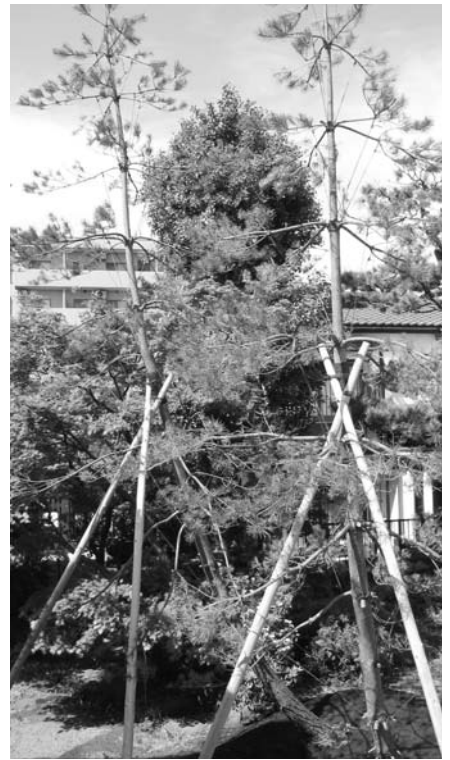
只見町と長岡市の 友好の証

松樹植樹セレモニー

河井継之助の号「蒼龍窟」 由来の松2本が復活

～只見の松の木を移植～

▼只見から移植されたアカマツ



長岡藩家老「河井継之助」の生家跡で新潟県長岡市にある河井継之助記念館に、河井継之助終焉の地である只見町の松の木2本が植樹されました。

5月20日、松樹植樹セレモニーが長岡市河井継之助記念館の庭園で行われ、只見町からは目黒町長はじめ、関係者が出席しました。このセレモニーは、長岡市と同記念館友の会が主催し

行われたもので、約30名が出席、セレモニーでは植樹までの経緯について説明があり、森民夫長岡市長のあいさつに続いての目黒町長の来賓代表あいさつでは「継之助の功績を広く伝えていくことが両市町の交流テーマになると思います。これを期に長岡市との交流がさらに深まり、発展することに期待します」と述べました。

その後、植樹の仕上げとして

高さ約10メートルの松の根元に目黒町長と森市長らが土をかぶせました。

同記念館になっている旧河井邸の庭には、かつて松の木が2本ありました。それは天に昇る竜を思わせる形で、継之助が書状に入れた号である「蒼龍窟」とはこれにちなんだものと伝わっています。

しかし、強風で倒れ1985年に姿を消しました。この松の木を復活させたいと地元有志が移植プロジェクトを推進、只見町の河井記念館に相談され、只見で育った樹齢約30年のアカマツを移植することになり、セレモニーが行われ、継之助ゆかりの松の復活を祝いました。

植樹実行委員長の田所仁さんは「これから伸びていく松の木を多くの人に見てほしい」と笑顔で話されました。



新たな交流に期待

目黒只見町長(左)
森 長岡市長(右)



松の木の復活を祝い
植樹する目黒町長